

鍼灸等研究費研究成果 要約

研究課題名	スポーツ選手に対する鍼灸治療の有害事象調査 — 安全性と競技に支障をきたすトラブルに着目して —
班長 氏名/所属機関	藤本 英樹 / 東京有明医療大学 保健医療学部
班員 氏名/所属機関	別添のとおり
成果	
1. 目的	本研究の目的は、スポーツ選手に対する鍼灸治療に特化した有害事象や競技中、練習中の競技活動に支障をきたすトラブルを横断的に調査することである。また、スポーツ選手に対する鍼灸治療の注意点につながる情報を収集することである。
2. 内容	<p>スポーツ選手の調査の対象者は、大学スポーツ選手（253名）、マラソン大会参加者（1310名）、トライアスロン、ラクロス選手（242名）の合計1804名であった。スポーツ選手に鍼灸治療経験のあるはり師・きゅう師の対象者は、182名であった。なお、本研究は、東京有明医療大学倫理審査委員会（承認番号-有明医療大倫理承認第0220号）の承認を得て行った。</p> <p>方法は、研究の主旨に同意したスポーツ選手、スポーツ選手に鍼灸治療を行った経験のあるはり師、きゅう師に対して、質問紙（もしくはGoogle アンケートフォーム）を配布し回答してもらった。質問紙は、スポーツ選手用のものとはり師、きゅう師用の2種類を作成した。質問項目は、①基本情報（年齢、専門競技）、②有害事象の質問項目（内出血や刺鍼部の疼痛など）、③競技に支障をきたしたトラブルの質問項目（競技活動に鍼治療が支障をきたしたかどうかなど）からなり、それぞれの項目について集計を行った。</p>
3. 成果/考察	<p>スポーツ選手を対象とした調査の中で、鍼灸治療の経験があるのは、840名（男性：603名、女性：234名、未回答：3名）であった。「鍼灸治療はプレー（動き）に好影響がありましたか？」という問いには、「あった」：268名（31.9%）、「少しあった」：238名（28.3%）、「ない」：153名（18.2%）、「悪影響があった」：4名（0.4%）、「未回答」：177名（21.0%）であった。「鍼灸治療によってプレー（動き）に支障をきたした経験がありますか？」という問いには、「支障をきたさなかった」：631名（75.1%）、「少し支障をきたした」：20名（2.3%）、「支障をきたした」：4名（0.4%）、「とても支障をきたした」：9名（1.0%）、「未回答」：176名（20.9%）であった。</p> <p>鍼治療の有害事象に関する問い（複数回答）には、「出現していない」456名（53.0%）、「鍼を打たれた時の痛み」143名（16.6%）、「皮下出血」85名（9.8%）、「鍼を打たれ終わった後の痛み、違和感」85名（9.8%）、「倦怠感」：44名（5.1%）、「皮膚のかゆみ」：15名（1.7%）、「気分不良」：9名（1.7%）等の回答が続いた。灸治療の有害事象に関する問い（複数回答可）には、「出現しなかった」：444名（52.8%）、「やけど」：33名（3.9%）、「倦怠感」：32名（3.8%）等の回答が続いた。</p> <p>本研究では、スポーツ選手に対する鍼灸治療の有害事象の調査を行った。その結果、鍼灸治療を受けたスポーツ選手の中には、少数ではあるが競技に支障をきたした選手も含まれていた。また、有害事象では、鍼を打たれた時、後の痛みや皮下出血、倦怠感が上位に挙げられ、これらの症状が競技に支障をきたす可能性も推察された。これらの成果を踏まえ、今後、スポーツ選手に鍼灸治療を行う際の安全性や競技に支障をきたす可能性について、スポーツ、鍼灸臨床の現場、教育機関へ提供できる基礎的資料になることが示唆された。また、スポーツ選手に鍼灸治療を行う際の注意点につながる情報になると考えた。</p>

別添

- 古屋 英治 / 呉竹学園 東洋医学臨床研究所
池宗 佐知子 / 帝京平成大学 ヒューマンケア学部
泉 重樹 / 法政大学 スポーツ健康学部
金子 泰久 / 呉竹学園 東洋医学臨床研究所
櫻庭 陽 / 筑波技術大学 保健科学部
鳥海 崇 / 東京メディカル・スポーツ専門学校
玉地 正則 / 不動前鍼灸治療院
吉田 行宏 / 明治国際医療大学 鍼灸学部